懐かしの品々をご紹介しています

「父の古時計」

五十嵐　勇（光台五丁目）

私の故郷は能登です。ある朝、姉から突然電話があり、「石川県の同級生から新聞のコピーを送ってくれたので持っていくわ」と明るい声がしました。その新聞には、父がかつて母の故郷の小学校に寄贈した大時計の記事が載っていたのです。

その小学校は母と私達３人兄弟も卒業したのですが、生徒数の減少で廃校になることが決まり、３０年以上も動いていなかった父の古時計は廃棄処分になることになっていました。　ところが廃校式の時に『大きな古時計』と題して六年生が演じた寸劇と替え歌がきっかけになって、「この大時計を町の公民館で保存することに決まった」というのです。

私達は、父が大時計を寄贈したことやそれがいまだ小学校に残っていたことも忘れていました。それだけに古時計を保存することを決めて下さったことに感激し、早速お世話いただいた町の役員宅にお礼の電話をしたのでした。

何とその方は今は亡き父の親友だったのです。父は昨年３３回忌、私は何かの因縁で保存が決まったこの動かない古時計を何とかして動かしたいと思いました。

思いついたのはテレビの力です。『探偵！ナイトスクープ』という番組へ依頼の手紙と新聞のコピーを送りました。数ヶ月後に「採用です」との電話があり、ビデオ撮りのために６月と７月に故郷に行きました。その過程で、約１００年前のアメリカ製であることや、文字盤の裏に大正６年に修理したことが記載されていたり、今でも分解して修理が可能であることがわかりました。そして８月に放映されたのです。時計が修理に出されたのはいうまでもありません。

後日、二人目の姉も入れて兄弟３人で「動いている大時計」を見に行きました。公民館で、動いている古時計の振り子を見つめていると、これからも父の気持ちが生き続けていくのだと思え胸が熱くなりました。

またそのとき父が時計と一緒に寄贈した「丹頂鶴の剥製」が隣村の公民館に昔にまま保存されいることがわかりそちらにも回ってきました。

ケースは新しくなっていましたが、６０年前の姿で保存されている「丹頂鶴」を見て、姉達は感激して涙を流していました。

父は、母親の故郷で私達がお世話になった小学校に少しでもお礼をしたかったのだと思います。

３月に能登半島地震が発生し、心配して町の役員宅に電話したところ「安心してください。時計は動いています。それに丹頂鶴も公民館も大丈夫です。」との返事でした。今年も「父の古時計」や「丹頂鶴」に会いに故郷に帰ろうと思っています。

懐かしの品々募集

- 昔懐かしい品々：今はなくなっているもの・・・・・
- 昔の懐かしい品々の写真・・・・・

お持ちの方は、どのようなものでも一度ご連絡下さい。 その品物を購入した動機、今まで宝（保管）にしている　理由などを広報部より取材させて頂きます。 順次広報紙で、紹介していく予定です。

ご連絡は事務局まで